

DREC100

取付説明書

090003-31990700

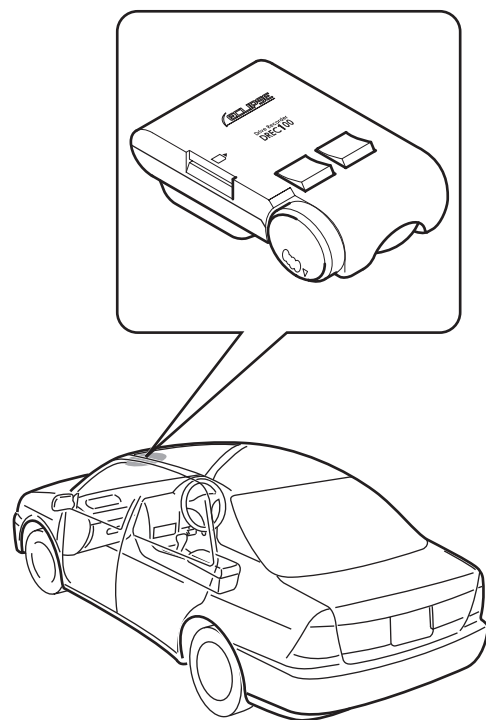
お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の実取り付けには、専門技術と経験が必要です。取り付け作業が困難な場合は、お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。
- 安全運転のため、ご使用前に「取扱説明書」、「取付説明書」をよくお読みうえ、正しくお使いください。
- 「取扱説明書」、「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

—販売店様へ—

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

取付概要図



FUJITSU TEN

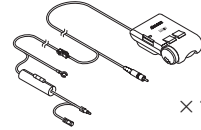
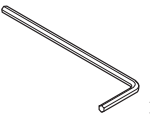


* 0 9 0 0 0 3 - 3 1 9 9 0 7 0 0 *

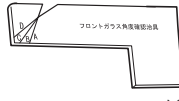
構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

●本体関係

①本体  ×1	②SDメモリーカード  ×1	③クランプ金属製(小)  ×1
④クランプ樹脂製  ×5	⑤バンドクランプ  ×4	⑥六角レンチ  ×1
⑦クリーナ  ×1		

●調整治具関係(包装箱に印刷)

⑧フロントガラス 角度確認治具  ×1		
--	--	--

●用意していただくもの

⑨クリップ(市販品) ※  ×1		
--	--	--

※クリップは、製品に付属していません。カメラ角度調整に必要ですので、市販のものを別途、購入してください。

●その他

その他の構成部品(取扱説明書、取付説明書、保証書などの資料類)

作業の前に

- 取り付ける前に構成部品をご確認ください。
- 取り付けには、一般工具のほか、はさみやカッターナイフ、布きれが必要です。
- カメラ角度の調整を行う際は、同梱の六角レンチを使用してください。
- ねじやボルト、ナットの取り付けには、寸法の合う工具をお使いください。

作業の進め方

- 1) バッテリーの⊖端子を外す
(取り付け作業中、ショート事故防止のため)
- 2) 接続を確認する (☞システム接続例)
- 3) 本体を仮固定する (☞取り付けと配線)
- 4) 配線する
- 5) バッテリーの⊖端子を元に戻す
- 6) 作動確認をする (☞取り付け後の作動確認)
- 7) 本体を固定する

●安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



：しなければならないことを表しています。



：してはいけないことを表しています。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。



アドバイス

この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。



警告



本機はDC12V/24V⊖アース車専用です。
12V/24V車以外では使用しないでください。



前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。
交通事故や怪我の原因となります。



車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。
火災の原因となります。



車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取得する場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しないでください。
これらを使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。



取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス⊖端子をはずしてください。
プラス⊕とマイナス⊖経路のショートによる感電や怪我の原因となります。



コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめてください。
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。



本機を分解したり、改造しないでください。
事故、火災、感電の原因となります。



電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にしないでください。
電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。



音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。
事故・火災・感電の原因となります。



ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズを使用してください。
規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。



万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な匂いがあるなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。



エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしないでください。
エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。



ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用してください。
破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。



接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁してください。
ショートにより火災、感電の原因となります。



警告



本機は、運転者の視界の妨げにならないよう、フロントガラス上部ルームミラーの裏側のガラスの範囲に設置してください。
自動車検査法人審査事務規定第5章5-47により設置場所が限定されています。



本機が衝撃を検知するかを確かめるため故意に危険な運転をすることなどは、絶対にしないでください。



機器内部に水や異物を入れないでください。
発煙、発火、感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、本機、シガーライタープラグに触れないでください。
落雷により、感電の危険性があります。



本機を使用するために、禁止された場所に駐車しないでください。



カード挿入口に異物を入れないでください。
火災や感電の原因となります。



注意



本機の取り付け・配線では、専門技術と経験が必要です。安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。
誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。



必ず付属の部品を指定通り使用してください。
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



本説明書で指定された通りに接続してください。
正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。



コードが金属部に触れないように配線してください。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。



コード類の配線は、高温部を避けて行ってください。
コード類が車体の高温部に接触すると被膜が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。



本機の取付場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。
取り外し、取り付けには専門技術が必要です。



本機を車載用として以外は使用しないでください。
感電や怪我の原因となることがあります。



イタズラその他の目的では、使用しないでください。
本機は、危険運転の際の状況を記録することが目的です。



本機を取り付ける際に外した、車両のボルト、ナット、ネジ等は、紛失しないように注意し、戻し忘れ、締め忘れがないようにしてください。



注意



しっかりと固定できないところや振動の多いところなどへの取り付けは避けてください。
衝撃を正しく検知できず、誤って作動したり、衝撃があっても作動しないことがあります。



本機に、強い力やショックを与える、落とす、上に重いものをのせることはしないでください。
火災、故障の恐れがあります。



シガーライタープラグを抜くときは、プラグ部を持って抜いてください。
コードが破損し、火災、感電の原因となることがあります。



濡れた手でシガーライタープラグの抜き差しをしないでください。
感電の原因となることがあります。



雨が吹きこむところなど水のかかるところや、湿気、埃、油煙の多いところへ取り付けしないでください。
本機に水や結露(エアコンホース周囲など)、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。



ヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けしないでください。
本機が高温となり、発煙や発火、故障の原因となる可能性があります。



両面テープで取り付ける場合は、取付場所の汚れやワックスをきれいに拭き取ってください。
きれいに拭き取らないと、走行時の振動で機器が外れて運転の妨げとなり交通事故やけがの原因となることがあります。



車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。



カード挿入口に手や指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。



本体を強くたたいたり、物をぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。
本体の故障や破損の原因になります。



本体への直火やドライヤー、熱湯での急激な温度変化を与えないでください。
故障や破損の原因になります。



本体及びレンズ部分をアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリン等揮発性の薬品類で拭かないでください。
変形や変質、破損の原因になります。



磨き砂等が配合された洗剤で拭かないでください。
キズの原因になります。



カメラレンズ部分が汚れている場合は、水を含ませた柔らかい布などで軽く拭いてください。
乾いた布で強くこするとキズの原因になります。



コードにキズをつけないでください。
キズ部分から本体内部に湿気や水が吸い込まれ故障や火災、感電の原因になります。

本機について〔必ずお読みください〕

- 本機は、常時記録型の映像を記録する装置ですが、全ての状況において映像を記録することを保証したものではありません。以下の場合などは、映像が記録されない、または、映像が残っていないことがあります。
 - ①本機にSDメモリーカードを挿入していない場合
 - ②本機からSDメモリーカードを抜いた場合
 - ③記録した画像が上書きされてしまった場合
 - ④大きな事故や水没などで本機およびSDメモリーカードが損傷を受けた場合
 - ⑤大きな事故の場合などでバッテリーと本機間の電源コードが断線した場合、または、バッテリーが損傷を受けた場合
- 本機は、事故の検証に役立つことも目的の一つとした製品ですが、完全な証拠としての効力を保証するものではありません。
- 本機で記録した映像は、その使用目的や使用方法によっては、被写体のプライバシーなどの権利を侵害する場合がありますのでご注意ください。また、本機をイタズラなどの目的では使用しないでください。これらの場合については弊社は一切責任を負いません。
- LED式信号機は目に見えない速さで点滅しているため、本機で撮影すると、点滅して撮影される場合があります。信号が映っていない場合は前後の映像や周辺の車両の状況から判断願います。LED式信号機が映らない件については弊社は一切責任を負いません。
- 長期間にわたり電源が供給されない状態が続くと、日時がずれる場合があります。日時が大幅にずれている場合や日時異常になった場合は、日時を修正してください。
- 映像が記録されなかった場合や記録された映像データが破損していた場合による損害、本機の故障や本機を使用することによって生じた損害については、弊社は一切責任を負いません。
- 本機は常時記録型の映像記録装置です。衝撃を検知して記録する装置ではありません。SDメモリーカードの記録が一杯になると古い映像を消して上書きします。事故などでデータの保存が必要な場合は、速やかに車両のエンジンキーをオフにしておく、または、SDメモリーカードを抜いておくなどの対応をお願いします。
- 記録した映像を残しておきたい場合は、パソコンのハードディスクにコピーしておくなどの対応をお願いします。
- 本機が起動中(LEDが点滅中、点灯中)にSDメモリーカードを抜かないでください。SDメモリーカードが破損し、映像を記録できなくなる恐れがあります。SDメモリーカードの破損による映像が記録できない件について、弊社は一切責任を負いません。
- 本機で記録した映像を見るために、下記のスペックを満たすパソコンが必要です。また、カードリーダーは含まれていませんので、ご使用のパソコンに接続可能なカードリーダーを別途ご購入願います。

パソコンの必要条件	
OS	Windows XP（SP3以降） Windows Vista（SP2以降） Windows 7 いずれも日本語版 32ビット版のみ対応 ※1
CPU	Pentium III 800MHz 以上 ※2
メモリ	128MB 以上 ※2
ディスプレイ	1024 × 768 ピクセル以上、High Color（16ビット）以上
サウンド	Windows で使用可能な PCM サウンド再生機能
その他	Internet Explorer 4.0 以降 USB2.0 または PCMCIA スロット経由で SD メモリーカードにアクセスできること

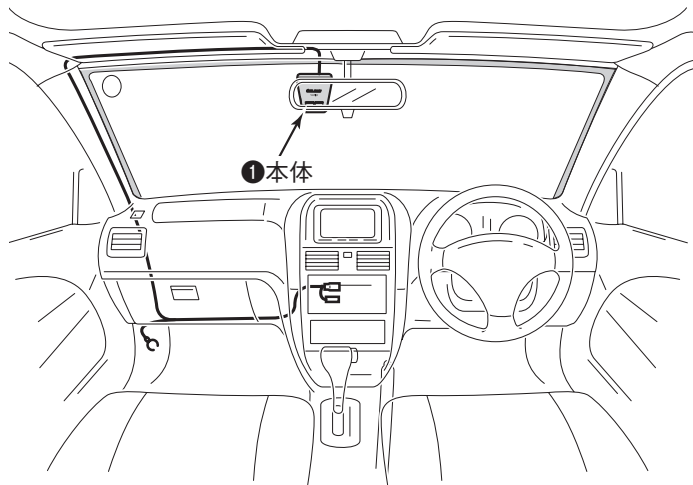
※1 上記のOS以外のバージョンのOS上で起動させた場合、アプリケーションの動作は保障されません。

※2 Windows XPの場合です。Windows Vista 及び Windows 7については、Microsoft社の推奨システム要件が必要です。

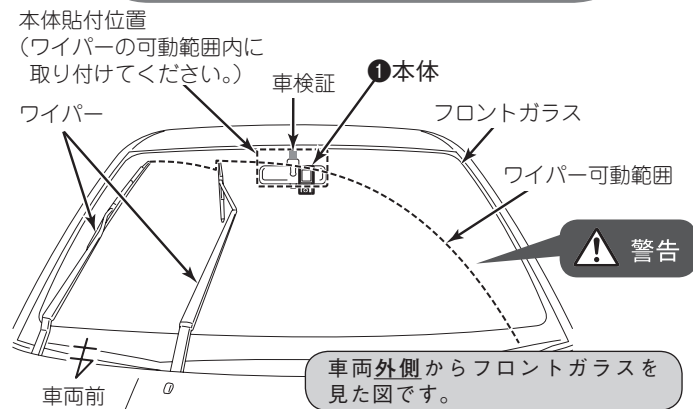
- ご使用のパソコンによっては、再生時に映像が乱れたり音声が途切れたりする場合があります。その際は、ビューアソフトを終了させ、再度ビューアソフトを起動して映像を再生してください。
- Windows XP、Windows Vista、Windows 7は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。その他、本文中に掲載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

取り付けと配線

取付配線概要図



本体取付概要図

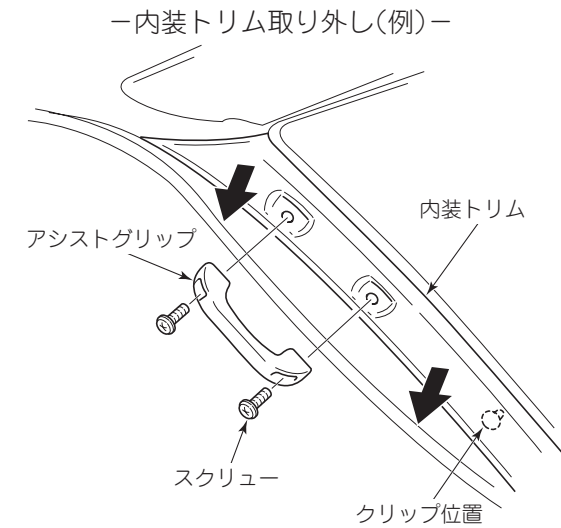


警告

- 本体はフロントガラス内側のルームミラー付近に取り付けてください。その他の場所への取り付けは、行わないでください。
(詳細は自動車検査法人審査事務規定第5章5-47を参照願います。)
- 本体は、車検証と重ならないように取付位置を決めてください。
- カメラの撮影範囲がワイパーの可動範囲内に収まるように取り付けてください。ワイパーの可動範囲外に取り付けると雨天の際、鮮明な映像が撮影できない可能性があります。
- カメラの撮影範囲には、黒セララインまたは、黒セラドットパターンなどの着色範囲を避けて取り付けてください。

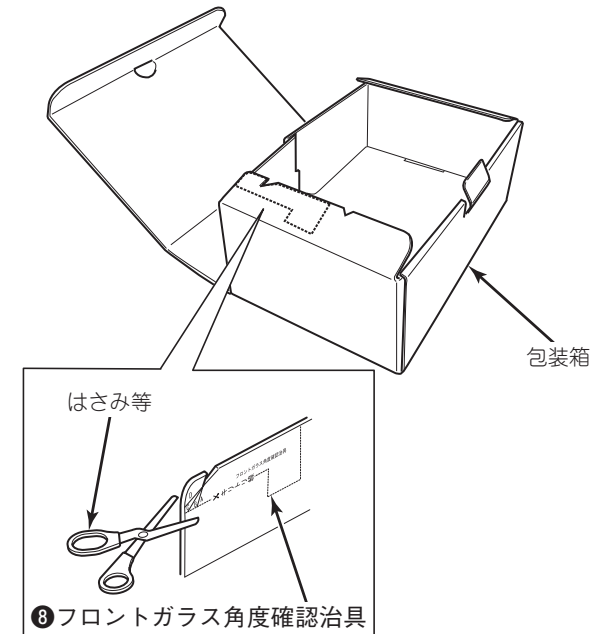
1 車両内装トリムを取り外す

- 樹脂製の内装トリムは、クリップや、ネジ等で固定されており、無理に外すと破損したり変形する事があります。
- 取り外し作業が困難な場合は、車のお買い上げ店や最寄りのディーラーにお問い合わせください。
(作業工費はお客様にご負担いただく場合があります。)



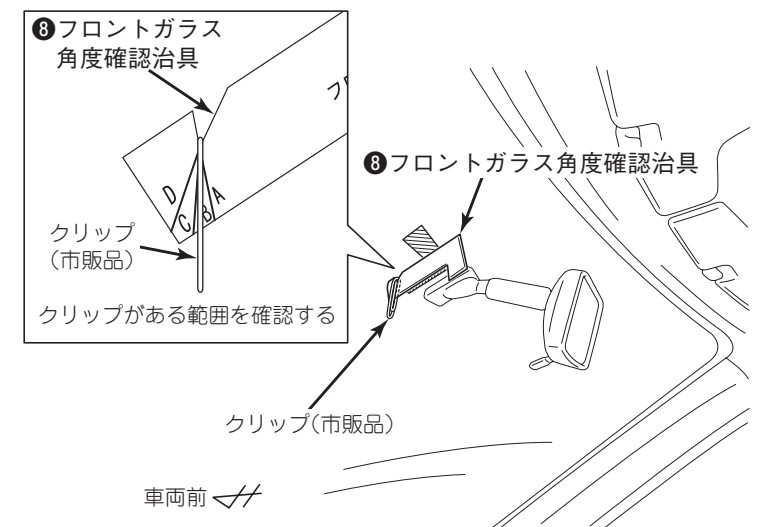
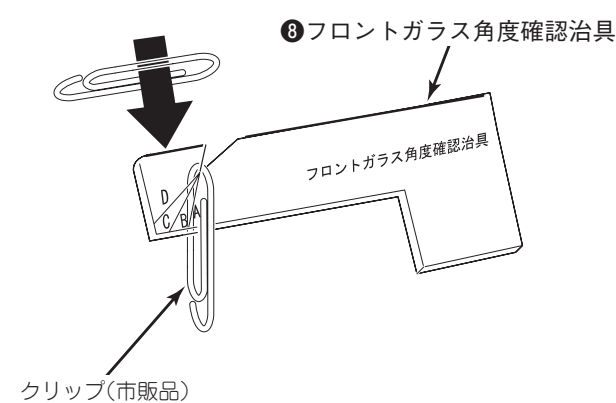
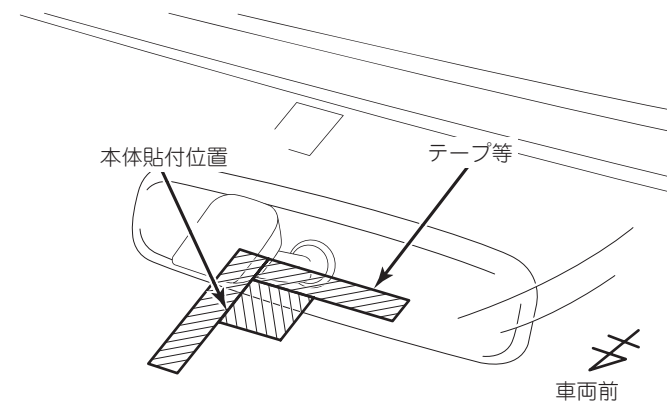
2 フロントガラス角度確認治具を準備する

- ① 包装箱に印刷されているフロントガラス角度調整治具をはさみなどで切り取る。



3 フロントガラスの角度を確認する

- ① 本体貼付位置を決め、テープ等でマーキングする。
- ② フロントガラス角度調整治具の切り欠きにクリップ(市販品)を引っ掛ける。
- ③ フロントガラスにフロントガラス角度調整治具をあて、クリップ(市販品)がA、B、C、Dどの範囲にあるか確認する。
 - ここで確認した内容は、次の手順で必要となりますので、メモをとるなどして忘れないようにしてください。
 - フロントガラスの傾斜は、必ず車室内から測定してください。



4 カメラ角度を調整する

🔧 アドバイス

初期状態ではB穴で固定されているため、手順**3**でクリップがBの範囲にある場合は穴位置の変更は不要です。

- ① 調整ねじを外す。(手順**3**でクリップがB以外の範囲にある場合)
 - 付属の六角レンチを使用してください。
- ② 手順**3**で確認したクリップの範囲と調整ねじ穴が合うように角度調整ダイヤルを回す。
- ③ 調整ねじを仮締めする。

- 付属の六角レンチを使用してください。
- ここでは本締めしないでください。ビューアソフトで映像を確認してから本締めをします。
- カメラの角度調整の際、コードが突っ張らないように注意してください。
- 調整ねじは時々点検し、緩みがある場合は増し締めをしてください。

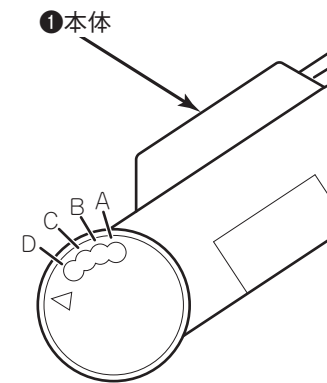
🔧 アドバイス

[クリップがAの範囲にある場合]
Aの穴を使用する

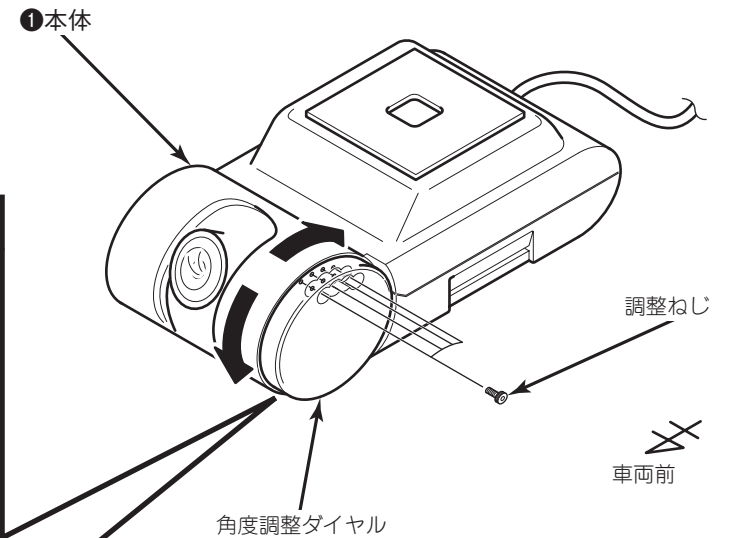
[クリップがBの範囲にある場合]
Bの穴を使用する(初期状態)

[クリップがCの範囲にある場合]
Cの穴を使用する

[クリップがDの範囲にある場合]
Dの穴を使用する



—角度調整—



5 ガラス面に本体を仮固定する

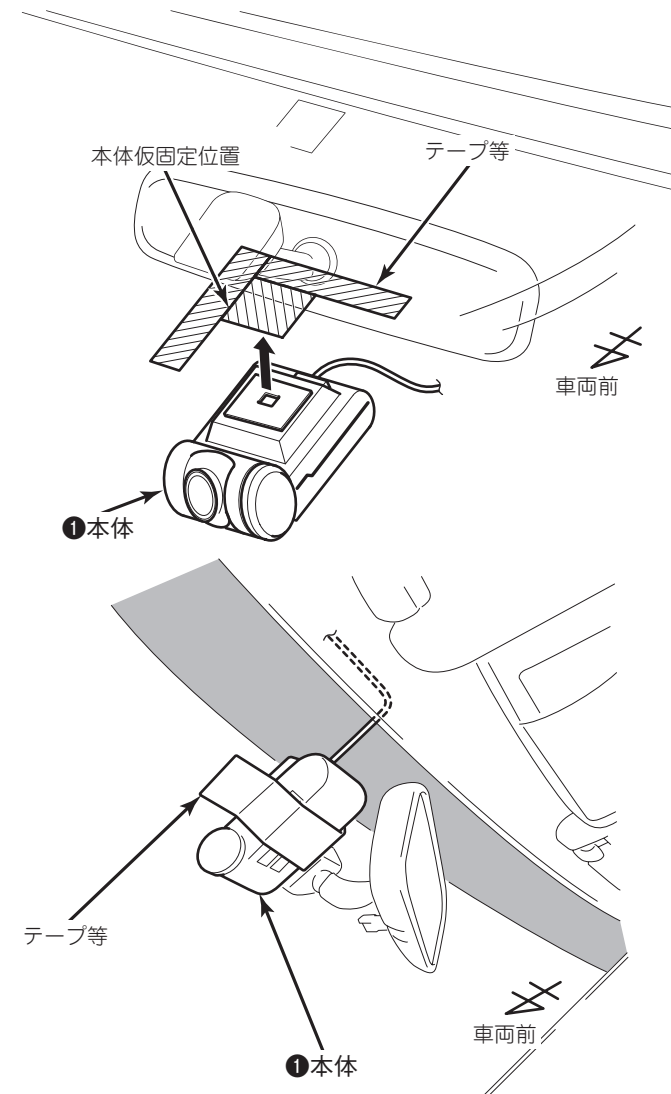
- ① 本体貼付位置に本体をテープ等で仮固定する。
 - ここでは本体の両面テープは使用しないでください。両面テープは動作確認後の本貼り付けの際に使用します。
 - テープで仮固定する際、本体やガラス面にテープの残らないように気をつけて作業を行ってください。

6 作動確認をする

- ① “取り付け後の作動確認”に従って作動確認を行う。
 - カメラ角度の修正が不要な場合→手順**7, 8**を行ってください。
 - カメラ角度の修正が必要な場合→角度調整ダイヤルでカメラ角度を調整し、再度作動確認を行ってください。

7 カメラ角度調整ねじを本締めする

- ① 調整ねじをしっかりと締め付け、カメラ角度を固定する。

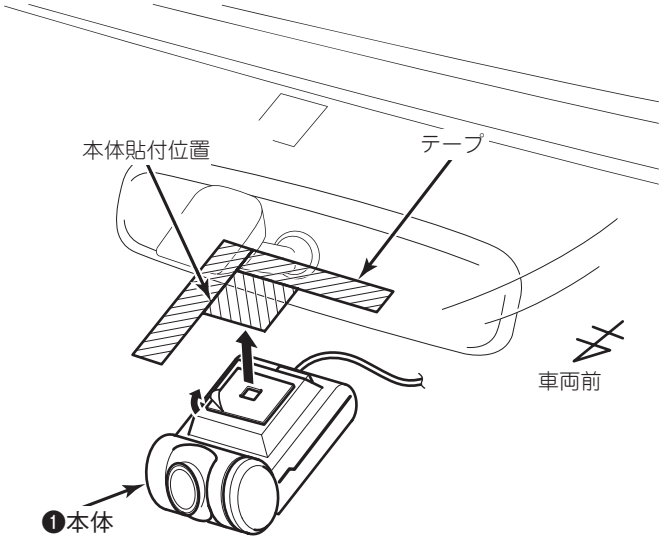


アドバイス

- 湿気が多い時は、屋外での取り付けはしないでください。
(粘着力が弱くなり、走行中にはがれる危険性があります。)
- 付属のクリーナで貼り付け面の汚れ(油分、水滴)をきれいに拭き取ってください。
特に水滴は両面テープの性能を劣化させますので注意してください。
(粘着力が弱くなり走行中にはがれる危険性があります。)
- 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。
本体やレンズ部分には、ドライヤー等を使用しないでください。
- 取り付け後、引っ張る等、無理な力を加えないで自然放置してください。
- 本体を十分な力で押えつけて両面テープの貼りムラが無いか確認してください。貼りムラがあるとその部分から水分等が侵入して走行中にはがれる危険性があります。必ずガラスの裏から気泡が無いか確認してください。
- 一度取り付けた物は両面テープの粘着力が弱くなりますので再貼り付けしないように注意して取り付けしてください。
- 取り付け後ガラス部を拭く場合は両面テープに水分がかからないようにしてください。粘着面の貼りムラから水分が侵入して粘着力が弱くなり走行中にはがれる危険性があります。

8 ガラス面に本体を貼り付ける

- ① 本体貼付位置の汚れ、水分、油分等を付属のクリーナ(布)できれいにふき取る。
 - フロントガラスに付着している水分は、十分に乾かせてください。
- ② 本体の両面テープのハクリ紙をはがし、本体貼付位置へ取り付ける。
 - 貼り付けた後は、確実に密着するよう本体を十分押し付けてください。
 - 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。
 - 本体やレンズ部分にドライヤーの熱風を吹きかけたり、熱を加えたりしないでください。
 - 本体貼り付け後、車両外側から見て貼り付けテープの部分に気泡がないことを確認してください。

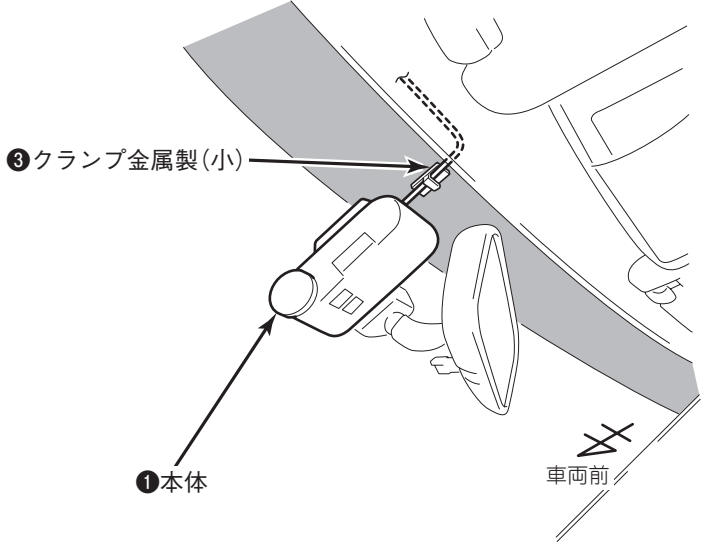


9 接続コードを配線する

- ① 接続コードをクランプ金属製(小)で固定しながら配線する。
 - 本体貼付部に負担がかからないように配線してください。

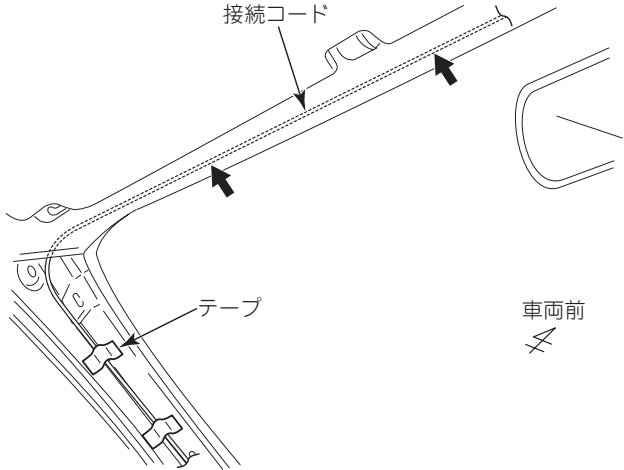
注意

クランプ金属製(小)は、必ず黒セララインまたは黒セラドットパターンの中に貼り付けてください。
黒セララインまたは黒セラドットパターンがない場合は、クランプ金属製(小)は使用しないでください。



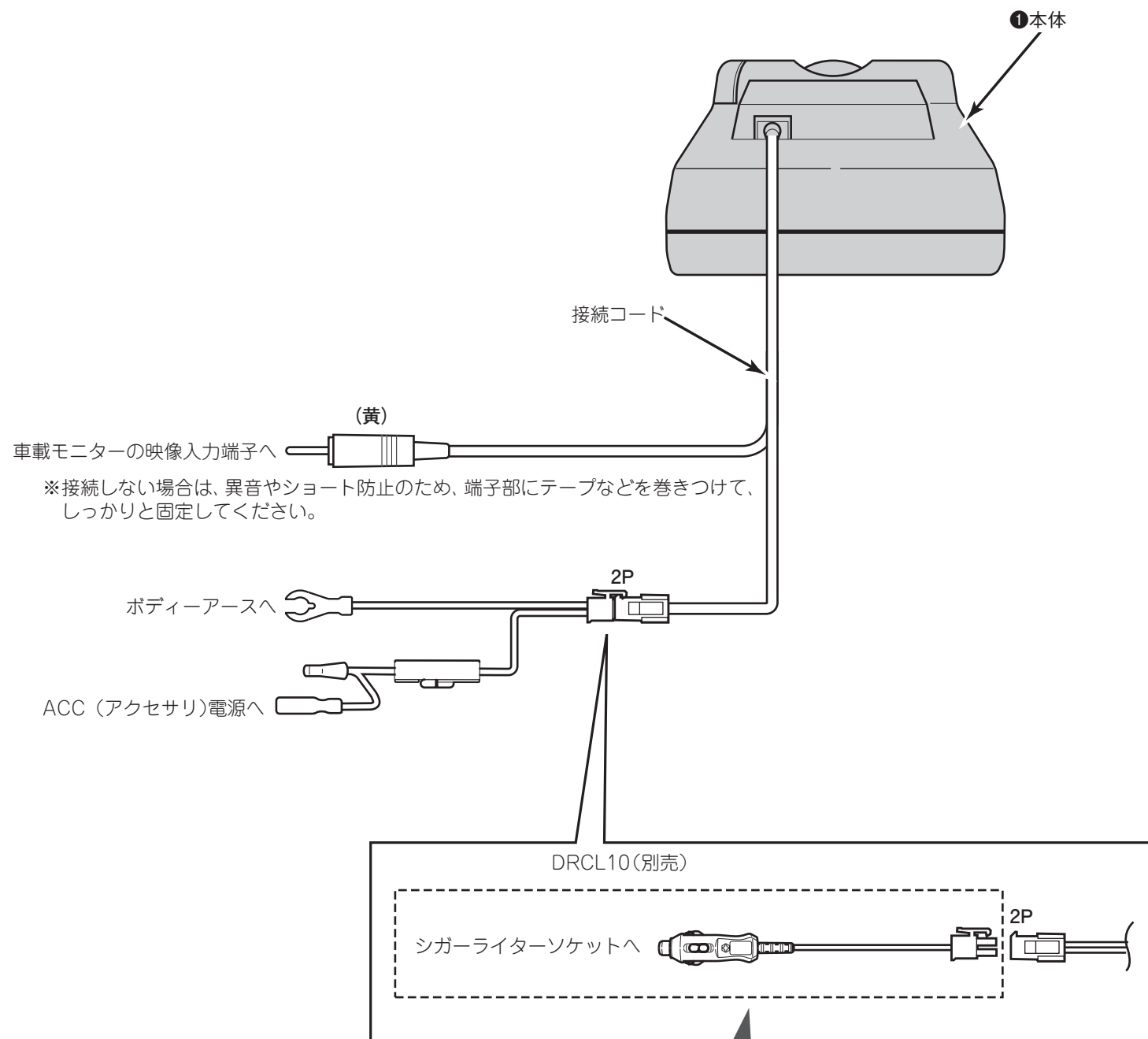
10 接続コードを配線する

- ① 接続コードをテープなどで固定しながら、電源および信号の取出位置まで配線する。
 - 接続コードは、ルーフヘッドライニングの中に配線し、はみ出さないようにしてください。
 - ルーフヘッドライニングに隙間があり接続コードがはみ出してくる場合は、接続コードにテープ等を巻き付けてルーフヘッドライニング内に押し込んでください。
 - ルーフヘッドライニングに無理な力を加えてルーフヘッドライニングが折り曲がらないよう注意してください。
 - 接続コードは、車両クリップ穴やネジ穴等をふさがないように配線してください。
 - 車両エッジ部分避けて配線してください。干渉する場合は、エッジ部分にテープを貼り付けてください。
 - 車両内装トリムを復元した際、コードにかみ込みが無い事を確認してください。
 - カーテンエアバッグ装備車の場合は、カーテンエアバッグの動作に支障のない位置にコードを固定してください。



システム接続例

●車両電源ハーネスとの接続には別売の車種別変換コードを使用すると便利です。詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。

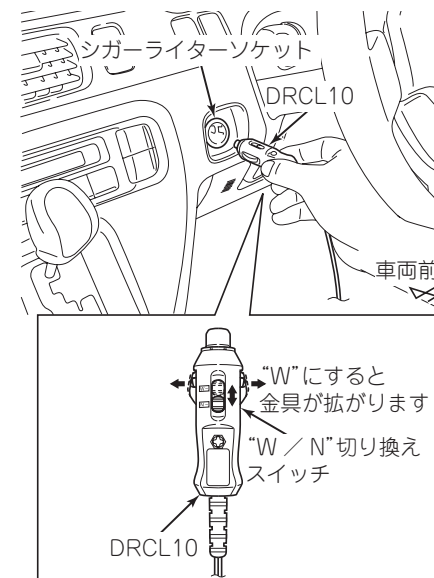


アドバイス



アドバイス

- 本機は、別売のDRCL10（ドライブレコーダー用シガーライター電源コード）を使用してシガーライターソケットからも簡易に電源をとれるようになっておりますが、車両によって常時、電源供給されていたり、接触不良により電源供給が、寸断される場合があります。この場合は、付属の接続コードを使用し車両のアクセサリ電源ラインから電源を取得することをお勧めいたします。
- シガーライターソケットから電源を取得する場合、車両のシガーライターソケットの口径に合わせて、DRCL10先端の金具の幅を調整してください。接触が不十分な場合、本機が正常に作動しません。



●取り付け後の作動確認

必ず、実施してください！

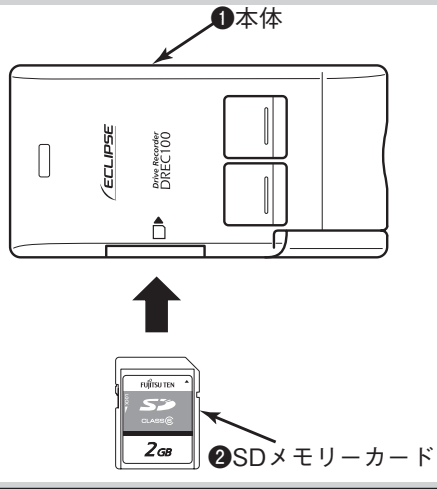
必ず、正しく動作していることを確認してください。取り付け後の確認は、車両を水平な場所に停車させて、実施してください。

1 本機の電源が切れている状態で、本体にSDメモリーカードを挿入してください。

！

注意

- SDメモリーカードの抜き差しは、本機の電源が切れていること(青LEDが消灯)を確認して行ってください。本機が動作中にSDメモリーカードの抜き差しを行うと、SDメモリーカードが破損するだけでなく、本機が故障する恐れがあります。
- SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチは「Lock」解除の状態で挿入してください。
- SDメモリーカードを本機に挿入する場合、向きに注意して挿入してください。
- SDメモリーカードは、カチッと音がするまで挿入してください。



2 エンジンをかけてください。

3 本体が起動します。青LEDが点滅した後、「ピッ」と鳴り、青LEDが点灯すると、記録開始です。

！

注意

●後ほどパソコンで撮影日時を確認するため、記録を開始した時の時間を控えておいてください。

4 録音状態を確認するため、記録中、ラジオやオーディオの音を鳴らした状態にします。

！

注意

SDメモリーカードへの記録中(青LEDが点灯中)は、絶対にSDメモリーカードを抜かないでください。SDメモリーカードが破損するだけでなく、本機が故障する恐れがあります。

5 起動後10秒程度経過してから車両のエンジンキーをオフにします。青LEDが消灯すると、電源が切れた状態です。

6 SDメモリーカードの中央付近を軽く押し込み手を離してください。SDメモリーカードが少し飛び出しますのでSDメモリーカードを取り出してください。

！

注意

- SDメモリーカードの抜き差しは、本機の電源が切れていること(青LEDが消灯)を確認して行ってください。本機が動作中にSDメモリーカードの抜き差しを行うと、SDメモリーカードが破損するだけでなく、本機が故障する恐れがあります。
- SDメモリーカードを挿入しない場合、本機は動作しません。SDメモリーカードを取り出した場合は、入れ忘れにご注意ください。SDメモリーカードが無い場合は、青LEDが点滅し、案内が「ピーッピーッピー・・・」と鳴りつづけます。スイッチを押すと案内は止まりますが、本機は動作していませんのでご注意ください。

7 パソコンでビューアソフトを起動し、撮影した映像を確認します。

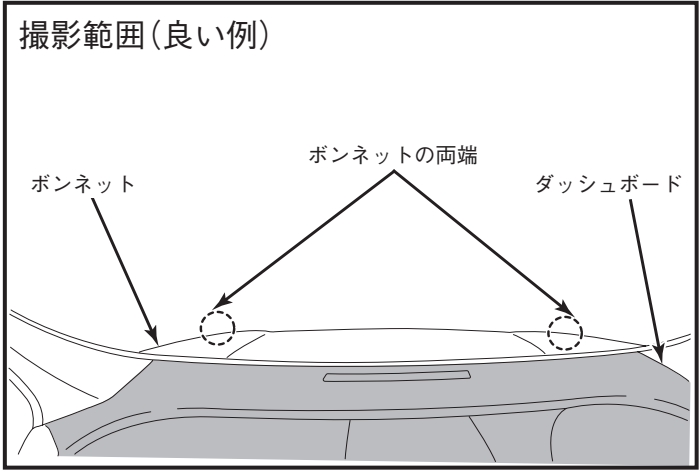
！

注意

●ビューアソフトの操作方法については取扱説明書をご確認ください。

確認のポイント

■ 撮影したい方向にカメラが向いているか。
上向きになりすぎている(空ばかり)、下向きになりすぎている(ボンネットやダッシュボードばかり映りこんでいる)ときは、カメラの取付角度を修正してください。



■ 音声が録音できているか。
鳴らしたラジオやオーディオの音が記録されているか確認してください。

■ 日時が合っているか。
日時が合っていない場合は取扱説明書の手順に従って日時を合わせてください。

